

地域施設の複層的利用にみる社会生活圏形成に関する研究

～大阪市西成区釜ヶ崎を事例として～

(株)オオバ 大宮 風 香

1. はじめに

本研究対象地域である釜ヶ崎は、『無縁社会』を代表する地域としてメディアで紹介されているなど、社会問題が集積するまちの一つである。また、この地域には食事・入浴等といった日常生活動作が自宅で完結出来ず、それを補完するため、外に出ざるを得ない、人と交流せざるを得ないという特徴がある。

地域における「ひとのつながり方」を見たとき、『刹那縁』ともいえる新たなつながりによって潰れないレジリエントな姿を垣間見ることが多く、その要素として、複層的な「まちの使い方」があると考えている。

そこで本研究では、釜ヶ崎における人々の「まちの使い方」に注目し、地域の施設及び共用空間の利用実態について、実際にまちを活用する人々の体験から調査し、社会生活圏という視点から地域拠点の重要性とつながり形成の手段を明示することを目的とする。

2. 地域概要と利用実態調査

大阪市西成区釜ヶ崎は長年「単身日雇い労働者のまち」と言われてきたが、近年は、生活保護などに対する支援の充実した「福祉のまち」といった側面も持つ。

釜ヶ崎は貧困などの様々な課題を抱えた人々の集まる場所であり、多くのNPOや支援団体などによる集まる場所であり、多くのNPOや支援団体などによる集まる場所であり、多くのNPOや支援団体などによる集まる場所である。地域内にはクラブ活動の場など居場所形成を目的としたものから、公園や公共施設など偶発的に発生するものまで、様々な形態の居場所・溜まり場となっている場が数多く存在する。これらの多くは他地域では見られない、釜ヶ崎ならではのものであると考える。

3. 調査概要

本研究では、日常生活における訪問拠点を経時的に生活領域として整理するために、地域滞在者⁽¹⁾45人に対し対面式のアンケート調査を、施設利用者、地域居住者33人に対しヒアリング調査を行った。調査内容は「まちの使い方」、「1日のスケジュール」、「普段利用する施設」とした。

4. 社会生活圏・行動分類

調査対象者の行動を訪れる拠点の数、拠点の種類、行動(行為)の種類、行動範囲によって分類したものを社会生活圏⁽²⁾として設定し分析を試みた(図-1)。

「拠点の種類」については、日常生活動作のために使う拠点(コインランドリー、スーパーなど)を日常拠点とし、日常生活動作のための拠点が結果として交流を生む場所になっている場合を間接拠点とする。交流型は、交流を目的とした拠点とし、たとえばひとと花センターがこれに該当する。したがって、日常拠点よりも交流拠点の方が他者との交流密度が濃くなると考える。「行動種類」については、拠点までの道程を表す。散策型は拠点にたどり着くまでに寄り道をしていく型のため、直行型よりも他者と関わりが発生する可能性が高いといえる。

上記の内容について、対象者78人を図-1右の分類に基づき、分類した。以下に、特徴的な事例を提示する。

拠点	数		分類
	少	多	
種類	日常	間接	a-地域内
	生活に必要な拠点 睡眠、入浴、食事等	本来の目的外で交流機会が生まれているもの	b-地域外
行動種類	直行	散策	1.多数拠点散策型
	直行	散策	2.多数拠点直交型
	直行	散策	3.少数拠点散策型
	直行	散策	4.少数拠点直交型
	直行	散策	5.散歩型
行動範囲	自宅	地域外	6.自宅拠点型
	自棟内	地域外	

図-1. 行動分類 分類軸

【事例1 (a-2) 地域内多様拠点直行型 Aさん】

Aさんは夜間緊急シェルター⁽³⁾や簡宿⁽⁴⁾を拠点として地域で生活している。朝4時半ごろ起床し、5時にシェルターを出る。早朝はセンター⁽⁵⁾の2階や新今宮文庫に移動し、眠ることが多い。また、三徳寮の談話室を知人と集まり情報共有を行う場として利用している。昼からはふるさとの家に移動し、食事を済ませるとその場にいた人と将棋を楽しむ。食事は特掃⁽⁶⁾や空き缶拾いで得たお金と、炊き出しの利用で賄っている。その後17時にセンターに戻りシェルターへ移動する。Aさんはあらゆる施設を活用し、まち全体を家のように利用し、日々を過ごしている。

【事例2 (b-3) 地域外少数拠点散策型 Bさん】

Bさんは生活保護を受け、SHに居住している。毎日、1時間程度の散歩には行くが、それ以外ほとんど家から出ない。毎週月・木曜日は地域外にロト6の購入に出かけ、そのついでに食糧を買い貯め、レンタルショップで数十枚のDVDの調達を行う。

人混みが苦手で人と関わるのが嫌いなBさんは、1日の大半の時間を自宅でTVやDVDを見て過ごしている。

現在居住するSHでは、朝の安否確認や大浴場での入浴、外出時の受付の声かけなどがあるため、わずかではあるが他人と関わりが生まれ、結果的に孤独は避けられている。また、Bさんはそれらの交流を見守り機能と認識している。

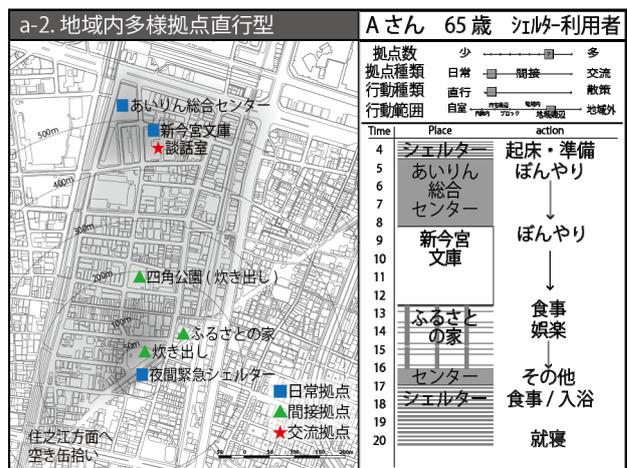


図-2. 【事例1 (a-2) 地域内多様拠点直行型 Aさん】

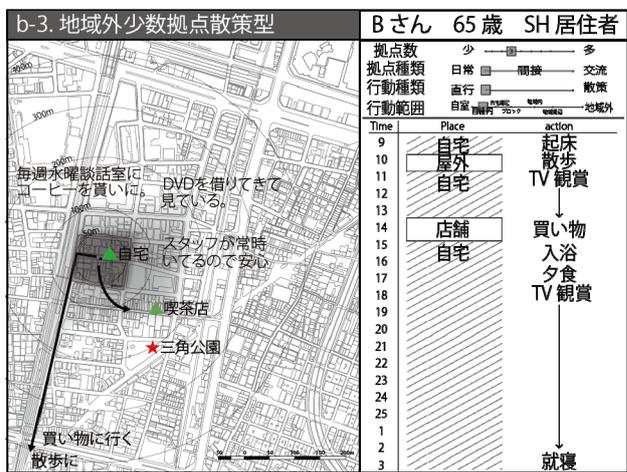


図-3. 【事例2 (b-3) 地域外少数拠点散策型 Bさん】

